

教育委員会からのお知らせ

天名小学校区 令和3年7月発行

鈴鹿市教育委員会事務局
教育政策課 政策推進グループ

☎059-382-9112 📠059-383-7878

✉kyoikuseisaku@city.suzuka.lg.jp

令和2年12月22日(火)(第3回)、令和3年2月19日(金)(第4回)、令和3年6月7日(月)(第5回)に行われた天名小学校の今後のあり方検討会議では、今後の天名小学校のあり方を「小学校を存続する場合」と「存続しない場合」に分けて、各々考えられる手法や課題を話し合いました。その概要をお知らせします。

天名小学校の存続を選択した場合 複式学級の発生を防ぐためには主に(1)学校区の見直し、(2)学校選択制度、小規模特認校制度等の手法が考えられます。

(1) 学校区の見直し

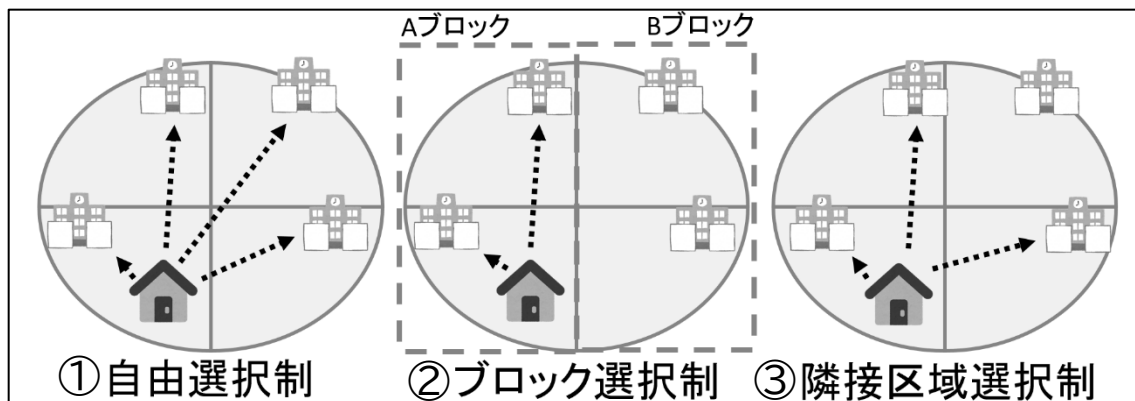
学校区の見直しとは、近隣の学校区を天名小学校区に変更する手法です。天名小学校区と隣接する小学校区は栄小学校、郡山小学校、合川小学校、国府小学校、明生小学校、稲生小学校の全部で6校あります。



(2) 学校選択制度、小規模特認校制度

学校選択制度には、①市内全域で自由に学校を選択できる制度(自由選択制)、②市内をいくつかのブロックに分けて、そのブロック内の学校を選択できる制度(ブロック選択制)、③隣接する学校を選択できる制度(隣接区域選択制)があります。(下図)

また、特認校として市内全域から児童を募集できる制度(小規模特認校制度)もあります。



「天名小学校の存続を選択した場合」をテーマとした話し合いでの主な意見

- ・「学区の見直し」の手法は、地元の学校から隣の小規模校に通うことになる地域の住民は、その手法を受け入れることはできるのだろうか。
- ・小規模特認校制度というのは、結局は他所から来てもらうということだから、いくら地元が独自で「これをやりたい」と特色ある教育活動を考えても、他地区の子どもたちが拒否したら、児童は集まらない。小規模特認校制度の利用目的が「天名小学校を存続させる」ことであれば、見極めながら特色を考慮しないといけない。
- ・天名小学校は学校と地域が非常に連動している。稲作から始まって、運動会とか夏祭りとか、非常に小学生の参加率が高い。小規模校だから積極性が育たないということは、誤りだ。大人数に揉まれた方がいいという考えは違う。
- ・地域との連携を大切にしている天名小学校を卒業した児童は、中学校でリーダー的存在として頑張っている子が多い。『主体性が育まれるといいな』と思う人たちは天名小学校が特認校になれば、入学してくれるのではないかと。
- ・私自身、小規模校だからこそ、子どもがつぶれず、地域の方や先生とも連動して子育てができたと思っている。
- ・天名小学校の特色を何かと考えると、天名マイふれあいフェア、御園の朝市、ふるさと先生等があると思う。
- ・南部地区には合川、天名、郡山、栄、稲生の5つがあるが、合川・天名・郡山・栄が束になっても、児童数は稲生の方がまだ100人ぐらい多い。アンバランスだ。学校を中心とした半径3kmの円を描く等して、学区の見直しをしてはどうかとも考えるが、天名小学校は少人数教育のままでいいのではないかと。



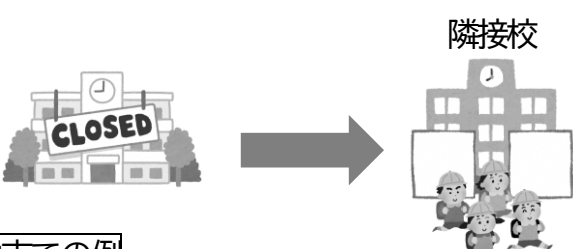
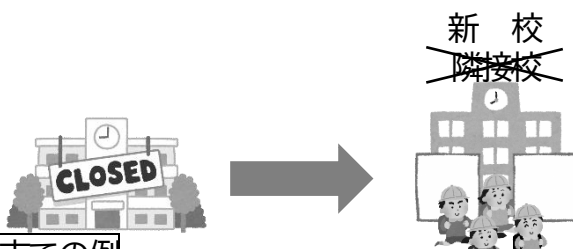

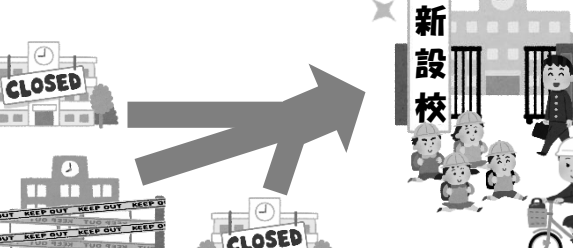
- ・私の周りの2、3人に聞いた感じだと、やっぱり「複式は嫌」といっている。もうスクールバスでいいから、ある程度の人数がいる学級のある学校に通わせたいと言っていた。
- ・私個人的には、映画とかで見る複式に憧れていたこともある。それこそ「二十四の瞳」に出てくる分校とか大歓迎だと思っていたが、未就学の保護者は、複式学級を経験してきた人ではないから、やっぱり自分の経験を基に「子どもたちにも同じような学校生活を」と考える。だから「複式は違う」と思う気持ちはわかる。

- ・40人学級が35人学級に変わり、世界でも30人学級が多い中で今、我々の検討会議で少人数を増やそうという方向性はむしろ間違いではないか。少人数の学級でいいではないか。複式学級になると先生が減るという話であるならば、それを増やす方法はないのか。
- ・この会議は、小規模特認校、複式学級…、どうなっていくか分からないが、このあり方検討会議の場は、育てている子どもが幸せになるためのお手伝いの話し合いの場だと思っている。一番は、小さい子どもが関わるので、「子どもがどう思うか」を大切にしたい。「先生が…」「人数が…」というよりは、「子どもが…」ではないか。
- ・ここにいる人は少しずつ学校規模適正化について理解してきているけど、自分の子どもが複式学級発生年に当たってくる人は、学校規模適正化について知らないと思うので、地区としても知らせるようにした方がいいと思うし、市の方も複式学級に関わってくる人たちに知らせたほうがいいと思う。



統合を選択した場合 「統合」には、主に以下の形態があります。

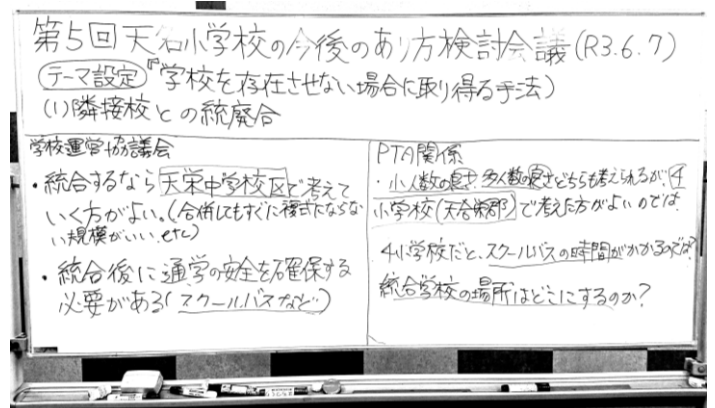
天名小学校の場合、進学先である天栄中学校の校区内に存在する学校との統合が考えられます。

<p>A. 既存の隣接校へ統合</p>  <p>他市での例 例) 津市立太郎生小学校を閉校後、児童は美杉小学校に通う。</p>	<p>A'. 隣接校舎に新しい学校として統合</p>  <p>他市での例 例) 四日市市立笹川小学校:笹川西小, 笹川東小ともに閉校後、笹川小学校を開校。笹川小学校の校舎として、旧笹川東小学校の校舎を使用。</p>
<p>B. 新設校に統合</p>  <p>他市での例 例) 志摩市立東海小学校:安乗小, 甲賀小, 志島小, 立神小, 国府小を閉校後、新天地に東海小学校を新設、開校。</p>	<p>C. 新設小中併置校に統合</p>  <p>他市での例 例) いなべ市立藤原小・中学校(小中一貫校):東藤原小, 西藤原小, 白瀬小, 立田小, 中里小を再編、藤原中学校と統合し、小中一貫型の小学校・中学校を開校。 津市立みさとの丘学園(義務教育学校):長野小, 高宮小, 辰水小を再編、美里中学校と統合し、施設一体型の義務教育学校[※]を開校。</p>

※「義務教育学校」とは、1人の校長の下、1つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校です。9年の課程が小学校相当の前期6年、中学校相当の後期3年に区分されていますが、1年生から9年生までの児童・生徒が1つの学校に通うという特質を生かして、9年間の教育課程において「4-3-2」や「5-4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが容易になります。

	義務教育学校	小中一貫型 小学校・中学校
組織・運営	1人の校長 1つの教職員組織	小学校、中学校にそれぞれ校長が1人ずつ それぞれ教職員組織が1つずつ
教員免許	原則、小学校・中学校の 両免許状を併有	所属する学校の免許状を 保有していること

今年度第5回の会議では2グループに分かれ、統合を選択した場合について協議しました。グループでの協議内容をホワイトボードにまとめ、共有しました。



「天名小学校の統合を選択した場合」をテーマとした話し合いでの主な意見

- ・ 統合するのであれば、天栄中学校区にある4小学校の統合がいい。
- ・ 他校が何年度にどうなるかわからないが、天栄中学校区での統合が望ましいと思う。
- ・ 今後、さらに人口減少が進むことが考えられ、将来的には、稲生や国府も関わって統合することになるかもしれない。しかし、近い将来のことを考えると、天栄中学校の近くに新たな校舎で天名・合川・郡山・栄の4小学校の統合が妥当だと思う。
- ・ 天名・合川・栄・郡山を統合した小学校とすべきだが、場所を考えると、中心にある郡山小学校への統合がいいと思う。
- ・ 具体的に統合をするというなら、「天名小学校+合川小学校」の統合を先行するのは難しい。まずは、「天名小学校+合川小学校+郡山小学校」が統合、その先に栄小学校を含めた4校の統合があると思う。
- ・ 4小学校が統合すると、子どもたちと地域との繋がりが薄くなるのではないか。
- ・ 統合後は、地域と学校が協働した『天栄モデル』を構築していきたい。
- ・ 統合する際、スクールバスなどの通学の整備をきちんとしてもらいたい。
- ・ スクールバスは、幼稚園の様に家の近くまで迎えに来てくれるとありがたい。
- ・ スクールバスは、普段なら10分で行ける目的地に30分かけて走るイメージ。
- ・ 子どもたちにとって一番いい環境を考えてもらいたい。国会でも35人学級とする決議がなされたということは、少人数の教育が良いとされた証拠である。鈴鹿市は、各学校18学級以下を目指してほしい。小規模な小学校に目を向けるばかりでなく、大規模な小学校にも目を向けるべきである。とすれば、市内の児童の均等割りが妥当であり、全市的な視野で学校規模適正化・適正配置の取り組みを進めてもらいたい。
- ・ 私は、いろいろな人と関わり、遊べる大人数の学校で子を学ばせたい。
- ・ 未就学児童の保護者に話を聞いた。「子どもたちのたくさんいるところで育てたい」という保護者と「複式学級でもいいから、天名小学校に通わせたい」という保護者がいた。
- ・ 小さな集団からより、ある程度まとまった人数のいる集団から進学した方が、中学校に行った時に知り合いがたくさんいて安心すると思う。
- ・ どの地域でも小学校というものは、地域のシンボルである。だから、統合の後に天名小学校跡地をぜひ地域のシンボルとなるような跡地利用を考えていただきたい。当然、地域も考えていかなければならない。
- ・ 学校の跡地利用は、非常に難しい問題である。法律の規制が厳しく、早い段階で専門家を導入していくべきである。
- ・ 鈴鹿市は、人口減少はずいぶん前から分かっていたことなのに、人口を増やす政策を全くしてこなかった。それなのに、今になって、人が少ないところをどうにかしようとするのは納得いかない。
- ・ 小規模学校の学校間連携の取り組みをしているイギリスを参考にすれば、複式学級のデメリットを解消できると思う。



児童生徒数の20年推計や「学校規模適正化・適正配置に関する基本方針」等、学校規模適正化に関するいろいろな情報を教育委員会ホームページに掲載しています。スマートフォンからは、右のQRコードを読み込み、アクセスしてください。

